

動いた土木部課長評

(二)

丹 波 浪 人

○
ずか二年有餘の土木課長生活を捨てて部制の下に在る課長に爲つたのは、何等か其處に譯がなければならぬ筈だ。

秋田縣の土木課長から愛知縣土木部の道路課長に轉じた仲本利夫君、榮轉か左遷かは一寸判らない、小さいとは言ふものゝ秋田の全縣下に亘る土木行政を擔任するのが可いか、夫れとも大縣ではあるが土木行政中の道路行政だけを擔任するのが可いのかは、見かたや考へやうに依つてド―にでも取れるからだ。

明治四十一年に名古屋高工を出てから昭和二年秋田縣土木課長に轉するまで、生れ故郷とは言ふものゝ十有九年間の永い間兵庫に居た、どちらかと言へば氣ながの君が、わ

兵庫のひら技師時代には井口田邊山本と矢張り同じ高工出身の技師が随分澤山居た、いつに爲つたら土木課長になれるやら一向見當が附かない、が併し河川のことも一と通り覺えた道路の方面も随分苦勞したから他の同僚とは違つて他縣の土木課長に爲る資格は備はつたと言ふ自惚れもあつた、世間も亦そふ君を評價して呉れた、で榮轉はしたいが、郷里播州赤穂には病の床にある慈父が月に一度君の顔を見ることを樂に待つてゐる、遠方へでも行けば其の孝養を疎すると言ふ惱があつて、秋田の土木課長に推薦された

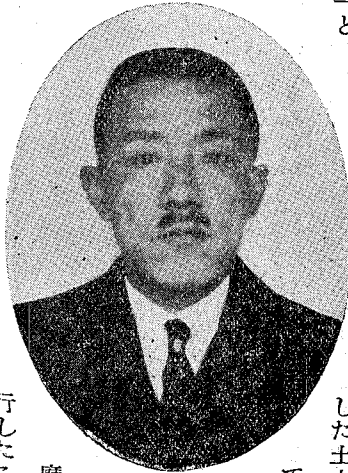
ときも惑ひ惑つた揚句路政僧などに相談したものだ、未だ他界する父でもない孝行する日も來るであらう、思ひ切つて行かなければ君の前途は先輩と同じやうな運命に陥る必定だ、島重治君が折角新味を示す積りで出身學校を問はず腕のある者を土木課長に推薦すると言つてゐる時だから、後日機を見て故郷近くに歸る積りで一と

先行け、行け、と進めたので老父を説いて遂に秋田へ行つたものだ。

であるから一足でも故郷近くへと言ふ考のもとに、愛知の課長を希望したのであらう、で孝道に専らな君の考としては必ずしも左遷ではあるまい。

東北第一の酒の産地秋田は、酒豪の君の任地としては恰合なところであつた、が併し政争が随分激甚で些細なことにもまで政黨の色眼鏡で彼是言つて來る、一人旅の淋しさに頼みとしてきた知事は、間もなく變つて力石雄一郎と爲つ

た、之も黨派的に妙な眼で睨むと言ふ風なので土木課長と言ふ職も案外辛いものだと思つたがどうかは判らないが、兎も角兵庫時代のやうに眼尻をさけて、愛酒慾を満足せしむることは出来なかつた、暫しの間は樂天家の君も神經衰弱と言ふ體に似合はない病の人となつたが、本省から配置した土木課長だと言ふことが力石の頭に這入つ



てからは随分可愛がつて呉れるやうに爲

仲 本 利 夫 君
つたので、夫れに力を得て弊害の最も多かつた土木工事の請負制度や災害土木費の補助制度やらを根本的に改正した、が併し是には縣

廳内部でも随分反對があつたが、之を取行したことに依つて君の手腕を認められるやうに爲つた、請負人が自分の繩張り内の土木工事を勝手に執行して後から請負金を請求すると言つた調子の悪慣習を破つたゞけでも君の秋田縣の成績を認めてやつて可い。

任地愛知では例の宮島三郎君の部下として働くのだ、此

處も亦秋田に敗けないや秋田以上に、政争の激甚な處だが、夫等のことはヌーボー宮島が專賣特許の手腕で操縦するだろうから、餘り君が心配せなくつても可い、だから其の方は宮島君に任せて宮島君が忘れかゝつてゐる土木技術の方面に活動し、内閣が變る毎に交迭する土木部長が變つても、君だけは變らないやうに心懸けて老父の孝養に盡すのが、君の本望であり責任であらう。

○

雄辯家、大分縣土木課長中隈伊勢吉君の依頼免官の辭令を見たが、依頼、夫れも、他働的のものか、自動的のものかは疑問だ、成る程君は明治九年の生れであるから當年五十四歳の高齡だが、御本人に就て見ると其の意氣や體軀は尙壯者を凌ぐ程だ、若し年齢に捉はれて讒首されたものとするれば、實質を疎した人事行政と言ふことに爲るが、内閣が變れば巡查や道路工夫に至る迄交迭する大分縣のことだもの、一縣の土木行政の責任者が變るのは當然だ、唯だ君が

形式的高齡者で、行く先きの適當な府縣が無かつたので、讒首の運命を見たのでは無からうか。

君は慥に土木部課長中の最古參者であつた、明治三十四年に第五高等學校工學部を出て一寸松山電氣會社に勤めたことがあるが、其の外は愛媛、群馬、香川、秋田、福島乃至大分と言ふ順序で各府縣の土木課長を勤めて相當の效績を残してゐる、香川縣などは明治四十四年から大正十二年秋田に轉するまで十二年間も勤務して、香川の土木の主とまで言はれる程永勤したものだ、勤め先きの縣が何れも財政に恵まれてゐなかつた勢が、餘り新規大土木事業を残してはゐない、唯だ地味に經常的土木行政の確實を圖つたと言ふ方だ、會々産業道路助勢の機運に乗つて大分縣で道路計畫を目論んだが、君の讒首と同時に其の計畫も亦破棄されて君は實に酬ひられない技術官と評せらるゝ位に氣の毒な人だ、殊に今の官場は筆者どもが常に攻撃してゐる大學閥擁護だから、結局君等のやうに手腕のある人も疎せられたので一層同情するのだ、別府の某料亭の女主人公が、

中隈さん何れ内閣が變つたら又浮び上がる役人さんだ、餘り嫌らないで私の別荘へでも行つて二三年お遊びなさいよ、と言つたのも詰り君に對する同情の現れだ。

政争激甚な土地とは聞いて居たが、此處まで徹底してゐる縣とは思は無かつた、縣廳の役人はや

れ民政だやれ政友だと、日常處分する事件の總てを黨派的に區別して

ゐると言つて憤慨してゐるが、實

際大分縣の土地を踏んで見ると君

の評した通りだ、先づ地方新聞は

二派に別れて小競合をやつてゐるの

を毎朝讀まされて不快の念を起さしめる、

あれが松田拓相の生れた所で民政の地盤です、向ふに見え

るのが元田國東の地盤です、と聞いても居ないことを説明

して得意がつてゐる役人だもの、日常の役人生活が思ひや

られる、中隈君が思ひ切つて道路工夫の停年制と言ふ何處

の府縣にも會て見ない妙案を制定したのも、工夫の採用に

迄及ぶ政黨の魔手を防止するの一手段であつた、是が爲に俺等の言ふことを裏切る土木課長だ、と言はれたのだから。併し何れが可いかは言ふ迄も無からう。

各府縣を巡業して田舎議員を相手に論争した勢か、夫れとも君の生れ附きかは知らないが、兎に角君は

土木主任官中に於ける辯雄家であつた、

中 昔の主任官會議では、今横濱に閉

居してゐる原靜雄やら藤宮惟一と

相並んで辯舌を弄したものだ、原

君 や藤宮が去つた後は君の獨り舞臺

のやうに感ぜられたが、此後君の辯舌を

聞かない土木主任官會議はさぞ寂寞を感じるで

あろう程に君の辯舌は雄だ、之に原因して退官後の君に政

界への進出を勧める連中もある相だが、現在の政界は殊に

大分の地方政界は在官當時君が倦厭した程の不淨界だ、夢

人の口車に乗つては爲らぬ、マー郷里福岡にでも歸つて長

男坊の出世を俟つが可い、私は君に對して永い間土木行政



の爲に盡された其の勞苦に對し、茲に深甚の敬意を表する。

るのに、君は其の型を破つて大正五年東大工科を出ると、日本水力や日本電氣工業の會社技師と爲つて民間事業に携はつた、其のお蔭で圓滿家に爲つたやうでもあるし又夫れ

香川から滋賀に轉じた櫻井哲三君、四國から本土へ歸つたから榮轉のやうにも亦凡轉のやうにもとれる、君の持つ

に依つて一層圓滿振りを發輝するやうに爲つたとも解せられる、併し何れにしても君は何事も遠慮し過ぎる嫌がある、

型から言ふのでは無いが、まる丸とした

會社から足を洗つて大正十年に埼玉縣技師と爲

君の顔、骨相家に言はしめたら圓滿

つて水利關係の事項を擔任したが、相變

家と評するであろう、私も君を實

櫻 らず會社氣分が抜けない、十四年

際圓滿家と見る、で手腕や政黨の

井 京都府に轉じたが、其處には後輩

關係で香川に居耐らなく爲つて滋

三 谷堅が技師として採配を振つて居

賀に轉じたのではなく、唯だ缺員

君 る、何も先輩の君が夫れに遠慮し

があつたから動いた、その意味で凡

ないでも可いのに、此處でも亦遠慮し過

轉とでも評し得やう。

きて圓滿で餘り活動しなかつた勢が、居ること

圓滿家、櫻井君を意氣地が無い男のやうに評する人もあ

二年餘りで靜岡に轉じた、此處でも餘り香しい仕事もして

るが、餘り圓滿振りを徹底せしめた爲に起つた誤解である

るない、こゝ言ふと無爲のやうであるが、大きな顔に滲て

う、其の圓滿主義が固有のものであるかどうかは知らない

くる汗をふき拭き物語るところを玩味すると隨分苦勞人

が、土木主任官の大部は學校を出ると直ぐ官途に就いてゐ

だ、唯だ遠慮して人に言はないだけのことだ、其の缺點を



同期の名物男、内務技師の宮本武之輔博士の進取的なところと搦き交ぜたら、とは友人の茶話だ。

任地滋賀は、所謂江州商人根性を地方政治の上にも表はしてゐる地だ、餘り遠慮すれば付きあがつてくる連中のゐる處だ、宮本博士のやうに一本槍的の生活が出来ないにしても、心氣一轉して圓滿——遠慮主義を琵琶湖の真中にでも放擲し一奮闘して貰ひたいものだ。

○

中國其一と誇稱する廣島から香川に轉じた横山喬君、誰れが聴いても榮轉とは言はないだろう、併し人生には浮沈がある、君が會て同輩に先んじて廣島縣土木課長と爲つたとき、同輩の羨望した夫れの裏が來たのだと思へば、餘り顔に筋を立て、憤慨するにも及ばないだろう、詰り君が同輩から一と足先きに榮進したのが、常態に戻つて同輩の夫れと同じやうな地位に爲つたと悟れば可いのだ。

氏が會て大阪府技師をして居たときは、例の阪神國道改

良工事の主任として随分働いたものだ、今も尙、筆者が新澁川大橋を渡る度に、山椒の實のやうにヒリリとした顔に筋を立て口に泡を吹いて説明する君のことを想起せずには居られない程、夫れ程に架橋に熱心であつたものだ、其の勞苦と研究との報酬とでも言はふか、當時大阪府の土木課長であつた島重治が拔擢されて内務本省の技術課長と爲つて土木課長を交迭したとき、君を一躍廣島縣の土木課長に推薦したものだ、あの男が廣島に行ツタカ、夫れは同輩の驚嘆の聲であつた、そう言はるゝのも強ち無理は無い、と言ふのは君が大正二年東大工科を出て直ぐ支那に行つて大阪に任官するまで約七年間も、文化の劣つてゐる支那で働いた、其の間に同輩は内地に居て地方土木の事業に従事し相當な顔振れに爲つてゐるのに、唯だ阪神國道の改良工事をやつたゞけで儕輩を抜いたのだから八ヶ間敷言はれたのだ、口善悪ない連中は今でも島君の建築した土木課長の異動を盲目的だ、直轄工事に永く居た勢で地方土木主任官の實力を知らないで人事を建築したのだと評して居るが、假

令夫れが事の実際であるにしても、我が横山君を廣島に配したのは、そう言ふやうな盲目的にやつたので無いことだけを保證する、夫れと言ふのも矢張り阪神國道の改修で、どれだけ君が苦勞したかと言ふことを知つてゐる筆者の實感からだ。

廣島縣は中國第一だと言つたところで、縣財政は微々たるもので、是れと言はれるやうな土木工事は一つもない、例の人情大臣が廣島縣に土木部を置きたいと言つたとやら言はぬとやらで、地方土木事業の勢力かゝ調べられたとき、廣島は岡山の下位に居たと言ふ位に土木事業の渺い否な土木の起業をしない地方だ、で君が廣島に行つたことを彼是言ふのは唯だ府縣の格識が上だと言ふ位なところで、技術家として活動する天地が小さい、君も亦そう思つたであらう、唯だ國庫が工事費の全額を負擔してゐる吳と廣村間の道路改良工事が、牛の涎的に施工された位のものでさぞ君を失望せしめたことであつたらう、併し初任土木課長の練習場としては恰合な所で、君も土木課長と言ふ行政技

術の兩方面に亘る職分に就て相當研究して經驗を得たことであらう。

高知は、大阪や廣島のやうに銘酒がないので、酒豪家の君を迎へるには不十分だ、で一夜を阪神電車内に送るやうな酔興は出来ないが、土木起業は廣島縣より盛だ、君をして技術的手腕を振はしめる餘地が澤山ある、併しのろろと思案して事を決するやうな廣島とは違つて性急だ、で廣島縣で得た經驗の總てを此處に持つて行つて行政する譯には行かない、上司の命令でやつたのたろが廣島縣で君がやつた路線認定のやうに、上司がやれと言ふからやつたと言ふやうな冷靜的な態度では熱血兒、高知縣人は承知すまい、餘り熱し過ぎても困るがモ一少し仕事に熱があつてほしいものだ。

政治の鬭争と言ふと少し話が大き過ぎるが、政友會と民政黨とが鎗を削つて地方政治を茶毒してゐる大分縣、そこ

る赴任した土肥憲二郎君、隣村宮崎の産だと言ふものゝ貧乏籤を引いたものだ。

前任地高知も随分政争激甚な處だが、此處は政争と言はうか私争と評しやうか一寸譯の判らぬ色彩を人間生活に與えてゐる所だ、前任者中隈君も之が爲に

色々に非難され攻撃されたものだ、

君も亦此畏にかゝるのかと思ふと

筆者は同情に耐えない、併し筆者

の懸念を裏切るかどうかは君此後

の手腕に俟たねば判らぬことだ。

君のキビしくした行動、言はゞ軍

人的に行動するのが非常に人目をひく、

こゝが普通のインヂニヤーと型を異にしてゐる、此點が中

隈君等と違ふ點だから或は縣人が歓迎するかも判らぬ、併

し或者は其の態度を難して、氣取り屋などと言ふ者もある

が、夫れは君が大正四年東大工學部を出て六年陸軍に入り

山東鐵道やら青島守備軍鐵道部に勤務して軍人生活をした

爲に自然に馴染した僻の表はれであつて故意ではない、話をして見れば見る程氣取るところでない駄洒落を飛ばし面白い男だ。唯だ外形の爲に縣民の誤解を招かないかを氣つかふだけだ。

君は宿命論者だ、自分もそう言つてゐる、夫

れと言ふのは、大正十一年陸軍から足を

土 洗つて大分縣土木技師と爲つて自

肥 轉車に乗つて縣下を視察した時、

二 峠の曲り角で荷車に遭つて谷底へ

君 轉け落ちた、そのとき土肥技師は

即死したとまで傳へられたのであつたが

遭難地は、人力車も無い片田舎でありながら、

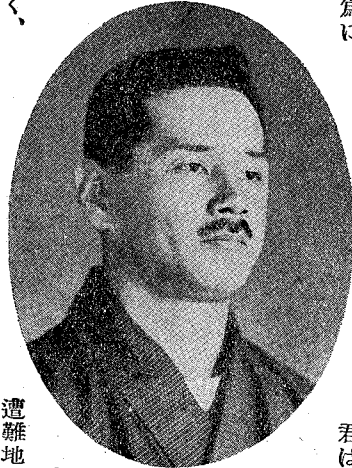
妙にそのをりは質にとつた人力車があつて、婦人科醫の宅

まで運んで呉れる、醫師は死を宣告し、縣立病院でも亦同

様であつたが、不思議に治つたと言ふので何事も世事は運

命に任せと言ふのだ、今も其のときの創が尙お顔に残され

てゐて、少し男前をさけたが、そのお蔭に宿命論を確信し



て何事も夫れに追隨してゐるやうだ。

高知縣土木課長時代でも例の八ヶ間敷屋大島破竹郎が知事をしてゐて、例の調子で部課長を指揮するのであつたが君だけに對しては特別に取扱つたそうだ、夫れと言ふのも君が宿命論を持して、他の部課長のやうに巧言を呈するでもなく、反抗するでもなく例の軍人的態度に、彼れ大島が惚れた結果だと言はれてゐる。成る程、大島知事が上京するときには影の形に伴ふやうに土肥君が附いてゐた、此お引き立てが禍して政争の地、大分に行つたとすれば氣の毒だ。

大分の事情は二度のお勧めで概要は御承知の筈だが、今は民政黨の天下、君の部下にも官吏でありながら民政黨員が澤山にゐる、否な夫等を以て構成されてゐる、で時に依ると夫等のものが外部黨員と相通じて君を牽制することもあろう、併し君が條理に従つて土木行政を執行したならば假令縣民の排斥を受けても君を見るものは觀るであらう、大分縣ばかりが吾等の天地ではない、大に君固有の手腕を振つて、從來政黨の爲に萎微してゐる土木行政を進展せし

め、縣議を維持する爲の犠牲と爲つてゐる請負制度や乃至は補助制度を改革して貰ひたいものだ。

知事大森吉五郎が山口から熊本へ轉じた、夫れに附いて行つたのが後藤季總君だ、夫れが榮轉であらうと左遷であらうとは本人も構つてゐるやしない、夫れ程に兩者は肝膽相照の間柄だ、であるから双方は言い度いことを無遠慮に言つて、知事の土木女房たる責任を完全に果たしてゐる。寔に可に配偶者と言ふべきだ。

後藤君が大正五年に九大工科を出て、山形の技師や三重縣の技師をして居た頃は、割合に理屈っぽい技師としか觀られなかつた、併し相手の話を半分聞いて直ぐ自分の意見を言ふ淡泊さは、理屈を言つても可愛男として持てたものだつた、三重縣で尾鷲の築港や波切の築港工事を擔任し一角の港灣技術家を以て自負するやうに爲つて、俺が土木課長になればもつと利巧に立ち廻つて土木行政を切廻すのだ

がナリと、伊勢灣にのほる月を眺めて、其の時機を俟つたのであつたが、其の希望は達せられ大正十三年山口縣土木課長に榮進した其のとき御本人は三重で所期してゐたやうに土木行政を執行して見せやうと思つて赴任したのであつたが、小男で歳の割に若く見える君に對しては、色々の批評が加へられた、老大牛島航や近藤博夫の後を襲ふてうまくやるだろうか、理屈家が初の縣會を乗り切るだろうかと言ふ調子の懸念的評判があつたが併し、老大牛島が計畫して近藤が其の執行に手を焼いて居た、あの縣下全般に亘る道路改良計畫を執行し、下關長府間國道の改良を始め其の外隨分澤山な道路工事を完成して、世評に傳へられるやうな理屈一點張りの男ではなく實行家であることを示した。

併し後藤君をして、思ふ存分に手腕を振はしめたに就ては、大森知事のあることを忘れてはならぬ、彼れ大森は人も知るやうに京都大學の出身であるが、同大學出身者が往々法律的小理屈を竝べ立てて大局を忘れると言ふ非難を藏してゐるに不拘、彼れ大森は其の癖に捉はれず悠揚迫らな

い態度で、部下を指揮し部下の建策を容れる餘裕を持つてゐる、で後藤君の建策を容れたものだ、夫れで後藤君が道路改良の爲に手腕を振ふことが出來たのだ、詰り知事が熱心だつたからだ、こう言ふと後藤君の成績は隠れるやうだが、夫れを執行する爲に起つて來る難問は總て後藤君が執行したのであるから、此成績は兩者の何れにも在るものと言はねばならぬであらう。

土木課長として必要なことは、眞正な技術的見地に於て意見を樹て、知事の裁決を誤まらしめないことで、政治技師なんかは厄介不用のものだ、君が此地位を忘れずに建策し、知事も亦夫れを採つて行政する、此二つのことが竝立しなければ土木行政の圓滑を見ることが出來ない、此意味に於て兩者は好配偶と言ふのである、熊本も亦大分に劣らない政争激甚の地だ、長官大森の行政、一層公平を所期してゐると言ふことだから、君は其の傘下に在つてモーニングを着て走つて居ても大丈夫だろう、山口以上に働いて貰ひたい。